

がん化学療法科 ニュースレター

ほほえみ 第113号



新型コロナ肺炎が拡大傾向で、収束の見通しが立ちません。その中で、東京オリンピックの開催が一年延期となっています。現在、欧米で猛威を奮っており、パンデミックとなってから日が浅いため、かなり長期間にわたる対策が必要になるでしょう。化学療法に関しては、流行の状況を見きわめながら判断していくことになるかと思われます。日本は、行政がフジーな対応しかしないようなので、曖昧な指示しかされない可能性はあるかもしれませんが、そこが悩ましいところです。

デカメロン

新型コロナ肺炎の流行は、ヨーロッパ、米国に広がり、特に、イタリアでは感染爆発の状況と伝えられています。イタリアには観光名所も多く、あのミラノがこんなに大変な状況になるとは、信じられない気がします。早く、ピークを過ぎて収束に向かうとよいのですが。

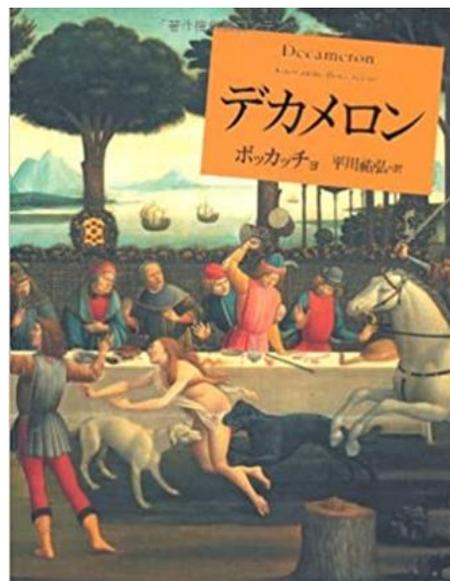
イタリアでは、歴史上、疫病が猛威を奮ったことが何度もあり、ペストの流行の際は、壊滅的な状況であったと伝えられています。14世紀のペストの流行では、ロンバルディア地方で住民の80%以上が亡くなったとも言われています。この時代を経験した人物が、ジョバンニ・ボッカチオですが、彼の代表作である『デカメロン』は、ペストの流行を避けて郊外に集まった、貴公子、淑女が10日間にわたって共同生活を送りながら、一風変わった話を、順番に割り当てられて話すという形式になっています。

ボッカチオはダンテの最初のファンであったと言われており、ダンテの神曲に即発されて、デカメロンを書いたといわれています。ダンテの神曲は100の詩からなっていますが、デカメロンは100の短編の話からなっており、実に様々な登場人物があります。王侯・貴族から商人、牧師、盗賊の類まで、立派な話もあるのですが、不品行。ゴシップの類も多くて、神曲に対して人曲と言われています。

人間のダメダメなところが書かれていることが多く、ダンテに心酔していたボッカチオが、この作品を書いた動機は何だったのか、不思議に感じていましたが、疫病というものを経験すると、人生の儚さを感じざるを得ないため、恋や恨み、反抗心のような、人間らしいことに目が行くようになったのではないかと思います。

歴史を知らなければ、滑稽な本なのですが、新型コロナ肺炎で、外に出歩くことでさえ疑心暗鬼のような時には、家で読むのに良い本なのかもしれません。

本来は、急いで読み通す本ではなく、たまに、気の向いたときに、息抜きに読む本かと思っています。昨日、本を開いてみたのですが、丁度半分程度読んでいました。この本の新刊は版が切れたようで、文庫本であれば買えるようですね。



お花見

今年はお花見は自粛ムードです。例年、お弁当をもって桜の木の下に出掛けるのですが、今回は、ちょっと通り掛けに見る程度になるでしょう。いつもより早い開花が予想されていますが、桜の方からすれば、早く咲いたのに楽しむ人も少なくて当惑するかもしれませんね。

私の実家は桜の名所に近い場所だったので、通学の際に桜並木を通り抜けるのがごく普通でした。咲き始めから、満開、葉桜まで通して季節の移り変わりを感じておりましたが、今にして思えば花見に関しては恵まれた環境であったと思います。

桜の開花を待つ風情というのもありまして、早春になり、床の間に古い花見の掛け軸が飾られると、雪は残っていても、春がすぐそばであるという実感がありました。掛け軸というのは、場所も取りませんし、毎年、この季節はこの掛け軸というのもあって、良いものですね。今は、テレビで季節を感じる程度です。



高岡古城公園

クロッカスの開花

自宅に複数の花を植えています。春になって最初に咲く花は、矢張り格別な気がします。今年の庭で最初に咲いたのは、黄色いクロッカスでした。急に大きく花が開いていて驚きました。昨年、球根スコップを使って植えたのですが、忘れていたような場所からも、春の陽気で球根が芽吹いています。

数は少ないのですが、黄色いクロッカスは花期が長い気がします。それに比較すると、白と紫のクロッカスもありますが、花は大きいものの時期が短いようです。

例年で言えば、次はジュンベリーかプルモナリアではないかと思えます。暖冬でしたので、早く咲くのかなと思っています。



MEMO

4月のがん化学療法科の予定

4月7日	診療応援(平出先生)
4月14日	診療応援(工藤先生)
4月21日	診療応援(平出先生)
4月28日	診療応援(工藤先生)
4月29日	昭和の日



今年の盛岡での桜の開花予想は、4月7日です。